

機関番号：12701

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20530807

研究課題名 (和文) イタリアの学校・社会における舞台表現教育の取り組みと音楽表現の関わりについて

研究課題名 (英文) Research on the Relation between Theater Education (Educazione Teatrale) and Musical Expression in Schools and Society of Italy

## 研究代表者

中嶋 俊夫 (NAKAJIMA TOSHIO)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：70334612

研究成果の概要 (和文)：音楽表現を「場」という視点から捉えるため、イタリアのロンバルディア州で「舞台表現 (テアトロ Teatro) 教育」の理論と実践について調査研究を進めた。子どもたちが身体、動き、ことば、音・音楽、ドラマを通して様々な場を共有しながら、伝達・表現するという本教育活動は、情動、認知、表現、コミュニケーションの局面を相関的に捉え、表現力を段階的に引き出していく注目すべき取り組みである。この視点をふまえ、音楽領域に特化した「音楽テアトロ Teatromusicale」の教育活動について、イタリアの研究者や実践家と研究交流を進め、その成果は、わが国の教員養成・研修のために実践的に活用された。

研究成果の概要 (英文)：To reconsider how to express music through the visualization of scenes, research was recently carried out in Italy, focusing on the activities of “Theater Education” (Educazione Teatrale). To study Theater Education 5 visits were made to Milan, Lombardy. There, field work was conducted on the joint programs promoted by the local government and schools, as well as universities offering courses on Theater Education for the purpose of training educators.

Theater Education’s learning process lets children share a variety of scenes through the communication of the body, movement, language, sound, music and drama. This process gradually brings out the child’s expressive abilities, while correlating the concepts of emotion, recognition, expression and communication. Based on the ideas and practices of Theater Education, I am promoted the research exchange with Italian researchers, practitioners, specializing on Theater Education’s musical field, called “Teatromusicale”. I presented a workshop on music expression, modifying and using the results from my research on Theater Education at the Teacher’s Training Session in Japan.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：イタリア 音楽教育 表現教育 音楽表現 舞台表現教育 テアトロ教育

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 音楽的体験共有の「場」

研究者は実践と研究を通して、「音楽的体験を共有する『場』づくり」という視点から、児童生徒の音楽表現のあり方について考察してきた。そこから表現者が物理的な位置関係において存在する「場」と、表現の解釈やイメージと関わる「もう一つの場」、この2つの「場」が相互に関連しながら表現活動が進められ、それによって音楽的体験の共有が図られることに着目し、その視点を教員養成課程の授業活動に取り入れてきた。

### (2) 開かれた学校

教員養成課程学生と児童たちの交流の機会を推進しながら、表現・鑑賞の体験は学校内にとどまることなく、幅広い人間関係や活動を通して深められるべきと考えた。このことを発展的に捉えると、学校や地域社会と連携しながら、青少年のために芸術文化教育を振興することは今日的意義があり、すでに様々な取り組みが実践されている。今日的意義とは、子どもたちの人格形成と関わる表現・コミュニケーションのあり方に展望を開くということである。

### (3) イタリアの新しい学校づくりとテアトロ教育

2000年からイタリアで“autonomia”（自主・自立）という語に象徴される教育改革が進行し、各学校では、地域と連携して独自のカリキュラムによる特色ある教育実践活動が推進されている。その中で舞台表現教育（以後、テアトロ teatro 教育）が活発化しているが、領域横断的に進められるテアトロ教育において音楽表現がどのように捉えられるのか、先述の「場づくり」の視点と関連して考察することに意義を見出した。

## 2. 研究の目的

研究者は「イタリアの音楽教育」を専門に研究してきたが、イタリアの公教育における音楽教育理念は、音・音楽を言語（linguaggio）やコミュニケーションの形態から捉え、その意味作用を感受・表現に生かすという考え方に基盤を置いている。

その上でテアトロ（舞台）を捉えると、それは色彩や図形、声、ことば、身体、音・音楽など様々な表現言語の共演によって生成すると言える。テアトロ教育の理論と実践から、先述の「音楽的体験を共有する『場』づくり」の考察と関連して、音楽表現の本質を捉え直すことが本研究の目的である。なお本研究で「テアトロ教育」は、演劇等の狭義の専門的教育ではなく、一般教育において創造性や美的感性をはぐくむ幅広い教育活動を対象とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 情報収集・文献研究（下記3点について）

- ① イタリアの学校教育改革 *autonomia* と新しいカリキュラムの理念にみる表現教育の方向性
- ② イタリアのテアトロ教育の歴史、理念、方法、実践について
- ③ イタリアの自治体、文化振興財団、劇場、学校連携によるテアトロ教育プロジェクト

### (2) 現地調査（下記4点について）

- ① ロンバルディア州教育研究所（Nucleo Territoriale della Lombardia-Agenzia Nazionale per lo Sviluppo dell'Autonomia Scolastica 在ミラノ）のテアトロ教育推進プロジェクト
- ② ミラノ県大60学区の小中学校におけるテアトロ教育および、同学区の文化協会「少年たちのための舞台」によるテアトロ教育推進プロジェクト
- ③ 教員養成課程を有するミラノ・カトリック大学および国立ミラノ・ビッコカ大学のカリキュラムと授業実践
- ④ 「イタリア音楽教育協会」ミラノ支部会員との研究交流

## 4. 研究成果

### (1) イタリアの新しいカリキュラムの理念と表現教育

2007年告示の「幼稚園・小中学校のカリキュラムのための指針」では「文化を構成するシンボリックな言語の修得を通して基礎的な学習を促進させる」と述べられ、「言語・芸術・表現領域」において、言語をヴァーバル、ノン・ヴァーバルの二方向から捉え、その表現教育を認知・情動・身体などと関連付けて多角的に推進する方向性が打ち出された。子どもたちは言語表現の多様性や特殊性

を体験的に学び、表現・コミュニケーションの形式を修得しながら、人間的に成長することを重視したイタリアの表現教育の理念は、わが国の教育実践にも様々な観点から示唆を与えるだろう。

(2) ロンバルディア州のテアトロ教育推進プロジェクト

①イタリアでは州単位で文部省の下部組織である教育研究所が設置され、州内の学校教育の質の向上、および特色あるカリキュラムを推進している。ロンバルディア州教育研究所ではテアトロ教育推進プロジェクトを1999年に立ち上げ、学校、教師、自治体、文化振興組織、劇場専門家などが交流、連携した活動を助成し、教員の研修、指導者養成のために成果を上げている。

②サクロ・クオーレ・カトリック大学ミラノ校および国立ミラノ・ビッコカ大学の教員養成学部ではドラマトゥルギーやテアトロ教育に関する授業やコースが開設され、学生のみならず、現職教員、社会人なども学んでいる。これら取り組みからテアトロ教育の指導方法が、理論と実践の両面から確立されていることが明らかになった。

③イタリアの新しいカリキュラムでは領域横断的な学習活動ラボラトリが推進され、ミラノ県第60学区の各学校ではラボラトリ活動の一つとしてテアトロ教育が活発に行われていた。その成果発表、実践研究交流の場として同学区で開催される「少年たちのための舞台」は地域と学校、舞台専門家たちが連携したプロジェクトである。これら実践観察と指導者たちとの交流を通して、「身体反応・表現」と「ドラマづくり」の2つの局面から捉えられるテアトロ教育の実態と指導法について把握した。

(3) テアトロ教育と音楽表現の関連

イタリアのテアトロ教育活動の中で音楽やリズムは表現言語として十分に認識されているが、それは劇中に挿入される演奏やいわゆるサウンド・トラック、BGMといった形が主流で、つまり身体表現やドラマのシーンの特徴づけるために活用されることが多かった。図1は、サクロ・クオーレ・カトリック大学でテアトロ教育を推進するG. オリーヴァが提示するテアトロ教育理念のモデルである。このモデルのように身体・精神・知性が自然な表現力へ導かれるというテアトロ教育の考え方は、子どもたちが感情やイメージを身体や言葉、演技で表現するように、音・音楽を自然な表現力として創造的に活用できるということを示唆している。

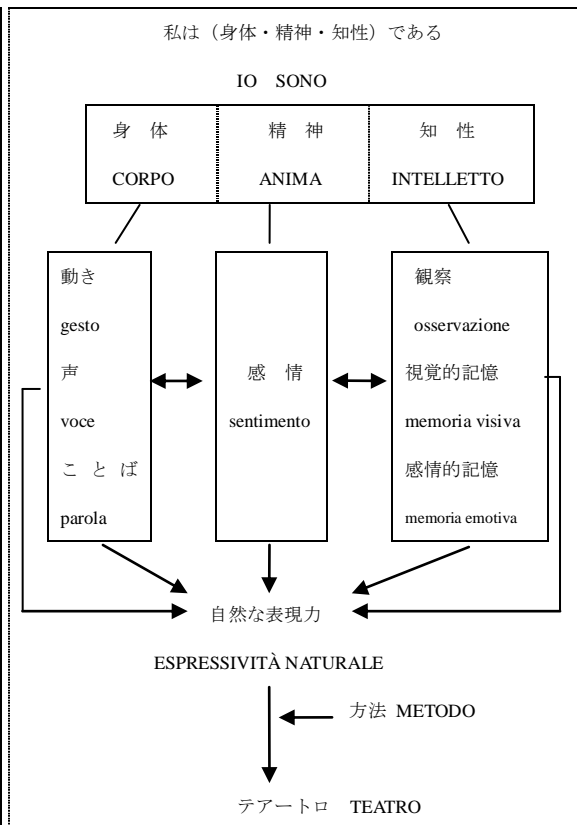
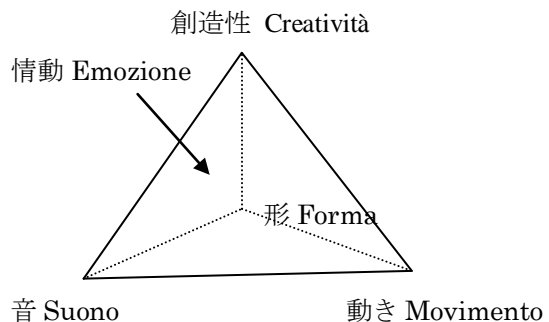


図1 OLIVA,G.(1999), *Il laboratorio teatrale*, LED, Milano, p.98

(4) 音楽テアトロの理論と実践

1998年から2000年にかけて文部省の助成により「テアトロ・ムジカーレ：領域横断的体験」という教育研究プロジェクトがミラノを拠点にして全国規模で展開された。このプロジェクトでは音楽がテアトロ表現としていかに活用されるかを実践的に追求している。舞台上で登場人物により演奏される場合、独立した音楽セクション（舞台下）が舞台上の表現、人物描写、動き、舞踊、情景と効果的に結びつく場合など、音楽の様々な活用が試みられている。

このプロジェクトの成果を経てP. ボーヴェは、テアトロ・ムジカーレは感覚的領域、物質的領域、概念的領域の3領域が連携して実践されるものであると主張する。そしてこの教育実践を一般的レベルで定着させたいと考え、次のモデル図を示している。



Bove, P. (2006), *Il teatromusicale, Un'esperienza interdisciplinare*, IPOC, Milano, p.133

三角錐底面にある「音」「動き」「形」の3要素の表現を生み出すのが「情動」であり、3要素の表現は思考によって統合され、創造性へと高められるとボーヴェは考えている。「音」は効果音、声、旋律、リズムなど、「動き」は身振り、動作、ダンスなど、「形」は設定された空間、場面を生み出す物質である。この3要素は舞台上で合流したり、対象(分岐)したりしながら無限の可能性をもって表現を実現していく。このモデルによる表現実践では「身体」が重要な役割を担っている。身体の内側は感じる身体、外側は表現する身体として捉えられ、外的空間に存在する身体は、身体を通して音や動きを生み出す。この実践モデルにおいて情動が表現の原動力として位置づけられているのは、身体の内側で感じられないものは真の表現に結び付かないと考えられるからである。

#### (5) わが国の教育実践への応用

2009年と2010年に小学校教員を対象とした研修会(神奈川県立総合教育センター主催)で、テアトロ教育の考えを応用した表現活動を計画し、「思いや意図」が「音・音楽」と「身体」の双方向から連関を図りながらどのようなプロセスを経て表現へと実現するかについて成果を上げることができた。この取り組みは「情動」「身体」「音楽表現」との関わりについて示唆に富むものである。

本学教育人間科学部学校教育課程授業「教育実地研究」の活動において、学生と子どもたちが表現活動を通して交流する場を大切にしてきたが、テアトロ教育の視点からさらに、本活動を身体と音・音楽、絵画、造形、ドラマなどの多様な表現として発展させる可能性を見出している。また、本学教育人間科学部附属鎌倉小学校の教育活動の中にテアトロ教育を意義づける優れた表現実践があり、それは本研究に成果をもたらすものとして位置づけられた。

#### (6) イタリアでの研究交流

本研究を通してイタリアの研究者、教育者と交流を促進させ、サクロ・クオーレ・カトリック大学のテアトロ教育のマスターコースでの授業(2009年10月、2011年3月)、イタリア音楽教育協会 SIEM・国立ミラノ・ビコッカ大学、教職研修組織 OPPI 共催によるセミナーでの講演(2011年3月、2012年3月)を行い、ロンバルディア州教育研究所とも連絡を取りながら研究の進展を図ることができた。この研究交流の基盤は今後を生か

されるものである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 中嶋俊夫 「イタリアの新しいカリキュラムとテアトロ教育にみる音楽表現の可能性—わが国の教育実践と関わって」『音楽教育実践ジャーナル』音楽教育学会編、査読有、vol. 9, no. 2, 2012, pp. 131-142
- ② 中嶋俊夫 「小学校音楽学習指導要領の理念『思いや意図をもって』をどう捉えるか—神奈川県小学校教員研究会での取り組みを通して」『横浜国立大学教育人間科学部紀要 I (教育科学)』査読無、No. 13, 2011, pp. 111-128
- ③ 中嶋俊夫 「イタリアの舞台表現教育の動向と創意—ロンバルディア州ミラノ県の取り組みを中心に」『横浜国立大学教育人間科学部紀要 I (教育科学)』査読無、No. 12, 2010, pp. 119-134

[学会発表] (計7件)

- ① 中嶋俊夫 「音楽教育におけるテアトロ表現の可能性—日本の小学校と教員養成課程における実践と考察」『音楽テアトロ—領域横断的体験』(教職研修組織 OPPI、イタリア音楽教育協会 SIEM ミラノ支部共催セミナー、於、民衆大学、ミラノ市) 2012
- ② 中嶋俊夫 「イタリアの音楽テアトロの理論と実践」音楽教育学会第42回大会(於、奈良教育大学) 2011
- ③ 中嶋俊夫 「イタリアの学校における表現教育の新しい展開—テアトロ教育と音楽教育の2つの視点から」イタリア学会第58回大会(於、大阪大学豊中キャンパス) 2010
- ④ 中嶋俊夫 「イタリアの舞台表現教育の動向と創意—ロンバルディア州の取り組みを中心に」日本音楽表現学会第7回大会(於、宮城教育大学) 2009
- ⑤ 中嶋俊夫 「音楽表現が生きる『場』の形成についての一考察—イタリアの舞台表現教育に示唆を求めて」日本音楽教育学会第39回大会(於、国立音楽大学) 2008

[図書] (計1件)

- ① 宮野モモ子、本多佐保美、中嶋俊夫他、教育出版『小学校音楽科教育法—創造性あふれる音楽学習のために』2009, pp. 88-96

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

中嶋 俊夫 (Toshio Nakajima)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号: 70334612